

総合特別区域の進捗に係る評価  
[グリーン・イノベーション分野]

令和2年度

あわじ環境未来島特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年2月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 (4+4.5)/2=4.3

4.3

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	エネルギー(電力)自給率	106%	5
2	二酸化炭素排出量	119%	5
3	再生可能エネルギー創出量	98%	4
4	竹燃料の消費量	22%	1
5	新規就農者数	81%	4
6	再生利用が可能な荒廃農地面積	111%	5
7	一戸当たり農業生産額	97%	4
8	持続人口(定住人口+交流人口)	-	-

評価指標毎の進捗の評価の平均値 (5×3+4×3+3×0+2×0+1×1)÷7=4

4.0

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.5

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 (4+4.8+5)/3=4.6

4.6

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

4.8

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

5.0

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.8

- ・事業開始より高い成果を挙げている再生可能エネルギーをはじめ、全体的に順調に推移している。
- ・太陽光、風力だけでなく、竹チップや農業廃棄物のバイオマスまで展開した再生可能エネルギー事業、地域新電力事業、うちエコ診断やEVなど需要側の取り組み等幅広く優れた取組が行われており、国がカーボンニュートラルを進める上での重要施策である脱炭素先行地域のモデルとなり得る。
- ・評価指標(2)のCO2排出量は、国の目標値が引き上げられたことから、再設定が望まれる。
- ・検討されているFS調査について、玉ねぎなどの野菜加工残渣と下水汚泥との混合メタン発酵の下水処理場併設型の検討は、下水処理場の既設インフラ排水処理能力活用の観点からも有意義。別途、実証研究に取り組まれているバイナリー発電の冷却熱源としての下水処理水の活用など複合的な利用も期待される。
- ・定住人口に加えて交流人口の代替指標による評価が必要。また、再生可能エネルギーの活用、農業振興で着実な成果が上がっており、次の展開のための地域電力事業、交流人口増大の取組と評価を期待。
- ・系統連系の手続きの短縮について制度変更に加えて自治体側の働きかけの内容等について説明を期待する。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.8

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(4.3+4.6+4.8 \times 2) / 4 = 4.6$

4.6

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。